

(様式第1号)

令和2年度 第2回芦屋市社会教育委員の会議 会議録

日時	令和2年8月25日(火) 午後3時00分～5時00分
場所	北館4階 教育委員会室
出席者	委員 今西 幸蔵 委員 野村 克彦 委員 守上 三奈子 委員 井原 一久 委員 村上 民恵 委員 荒谷 芳生 委員 亀田 吉信
欠席者	委員 押谷 由夫
事務局	社会教育部長 田中 徹 生涯学習課長 長岡 良徳 生涯学習課課長補佐 中寫 健太 生涯学習課管理係 金子 奈央
会議の公表	<input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input checked="" type="checkbox"/> 公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 開会あいさつ
- (2) 委嘱状及び任命書交付
- (3) 委員の紹介
- (4) 議題
 - ア 令和2年度兵庫県社会教育委員協議会総会並びに研修会について(報告)
 - イ 阪神南地区社会教育委員協議会第1回役員会について(報告)
 - ウ 令和元年度12月期 社会教育関係団体登録申請について(報告)
 - エ With コロナ時代の社会教育について
 - オ その他

2 審議内容

<今西議長>

それでは、議題(1)について、事務局から説明をお願いします。

<事務局：中寫>

【事務局から説明】

<今西議長>

それでは、議題(2)に入らせていただきます。阪神南地区社会教育委員協議会第1回役員会についての報告を事務局からご説明をお願いします。

<事務局：中畷>

【事務局から説明】

<今西議長>

次の議題に移らせていただきます。議題(3)に移る前に、補助金の審査について、事務局より説明があります。よろしくお願いします。

<事務局：中畷>

事前に開催案内をお送りさせていただいた際には、議題として「社会教育関係団体公募提案型補助金の審査について」と記載しておりましたが、後期募集におきましては企画案の提出が0件であったため、今回の会議における補助金審査はございません。

<今西議長>

続きまして、議題(3)の令和元年度12月期社会教育関係団体登録申請についての報告に移りたいと思います。

事務局からよろしくお願いします。

<事務局：金子>

【事務局より説明】

<今西議長>

次の議題に移らせていただきます。次の議題(4)につきましては、私の方から先に説明させていただきます。

今日も教育長の方から、先ほどのご挨拶の中にもあったのですが、教育長はずばり何が出来るのかという事を、何をすれば良いのかという事をおっしゃったと思います。このコロナの流行の中で、私たちの教育活動が、学校教育はもちろんそうですが、社会教育においても多大な影響を受けている。そういった中で、今マスコミの使っている用語で言うと、「新しい日常」という事が言われています。その「新しい日常」の中における社会教育、あるいは、広く生涯学習活動がどうあるべきなのか、特に芦屋市ではどうなのかという事についてのご意見を皆様からお聞きしたいと思っています。出来たら何をすれば良いのかという所までいけたら良いですが、それは今日1回の会議で答えが出るような代物ではないと思いますので、今日中の結論は難しいかもしれませんが、そういった事に向けて、私たちが何をすれば良いのかご意見がいただければと思っております。

色んな情報を私の方からも出していこうと思っているのですが、最初に、亀田委員以外の皆様は組織を持っておられる代表の方々ですので、その組織団体が今どんな事で悩んでおられ、どういうふう突破口を見つけて行こうとなさっているのか。それについ

てのお話を、それぞれ違った立場ですのでお伺いして、そこからまとめていければなど思っております。また亀田委員におかれては、客観的立場からご意見を頂戴できたら良いなと思っております。そういう進め方でよろしいでしょうか。

そうしたら、野村委員からお願いします。学友会中心にお話しただければと思います。

<野村委員>

今回のコロナの影響を受けてという事になるかどうかわかりませんが、学友会の会員は高齢者ですから、コロナの影響をまともに受けまして、ほとんどの活動が停止しているという状態です。学友会という活動を運営して行く学友会委員会というのがあるんですけど、これはそれぞれの卒業年度の代表者が出てくるという事で、35、6名のメンバーが集まって会議をするんですが、それも最近になってやっとミーティングが出来出したというところなんです。それも公民館の普通は100人ぐらい入れる大きな部屋にコの字型にテーブルを組みまして会議をするんですけど、端っから端っまで遠すぎてですね、コミュニケーション出来ないという状況で、最近やっと始まったところなんです。

学友会の悩みでは、コロナの問題を別にしまして、私は今監査役やっているんですけど、その前の前は会長やっぴまして、ちょうど30周年という事で、色んなイベントを大々的にやっぴまして、830名ぐらいまでの会員数になったんですよ。ところがそれ以降メンバーがずっと減りまして700名ぐらいになっています。それはコロナの影響とかそういう事ではなしに、戦後世代ですね、昭和22年生まれとか、その辺りの生まれの方が最近の新入会員のベースになって来ていて、その辺の人たちの考え方がずいぶん変わってきているんですよ。変わって来ているというのは、まあ個人重視型というか、自分の主張とかはするけど、集団でやっぴいくというふうな考え方は、たぶん戦前と言いますか、それより前の人よりは、ずいぶん薄いんじゃないかと思ひます。ですから学友会の私どもの団体のもう一つ前に芦屋川カレッジというのがありまして、そこで1年間学んで、友を作っぴ、次に同窓会としての学友会に入っぴくるんですが、その芦屋川カレッジに入学する人も減っぴて来ているんですね。普通ですと、年間110名ぐらい入っぴくるんですけど、最近ですと90名とかですね、募集をしても前は競争だったんですけど、もう定員に満たない。本当は、老人増えっぴているんですけどね、もっと増えっぴてもいいようなものなんですけど、逆現象が起っぴています。ですから、そういう事が一番の基本的な悩みなんですけど、どうすればもっと参画してもらえるか、そういう努力が必要なんでしょうけど。基本的にはやはり今言ひました様に個を重視して団体で活動するのが少なくなっぴて来ている。たぶんこれは、学友会とかそれだけじゃなしに、会社とかの活動もそうじゃないかと思ひますね。会社のOB会なんかもたぶん昔に比べたら非常に少なくなっぴている、そういう現象の中で、コロナというのが起っぴりましたので、そういうものに加速的に影響を与えっぴてくるんじゃないかと思ひますけど。

僕の個人的見解ですけど、前のスペイン風邪でも多分そうだったと思うんですけど、今の異常事態をどう見るかですね。例えば3年経っぴて収まりだしたら、そんなに大きな影響なしに、多少の影響はあるでしょうけども、元の状態に戻っぴて行くんですかね。テレワークとか、そういうコミュニケーションの新しいツールが言ひられていますが、やは

り人と人との触れ合いというのは、そんなに衰える事はないと思うんですけどね。それを重要視したベースをしっかりと持ってないと。今このコロナの時期だからテレワークなどの方に走って行って良い物かどうか、現状のこういう特別な環境の中で起こっている現象だという見方をしていくのも必要じゃないかという気もするんですが。最近思っている所は、そんなところですよ。

<今西議長>

とても貴重なご意見いただきました。コロナでなくても今の新しい傾向も一定程度ある中で、しかしコロナが色々な意味で加速的影響があるとご指摘いただいた事も参考になるご意見だと思います。正直なところ議長が言うのもなんですが、元の状態に戻るのか、あるいはもう新しいのに行くのか、この判断は今しかねるのではないかと、大変悩んでいるところであります。

<野村委員>

東日本大震災が起こってから、芦屋市でもそうですけど、津波とか起こってきますと、それに対応するという非常に高い防波堤を何百億円も金をかけて作ったりしていますけども、起こる頻度からしたら可能性は少ない事に、非常に大きなお金を掛けてやっているじゃないですか。これを住民の人が本当に要望したかどうかは分からないですけどね。芦屋市でも今、浜の所に防波堤を作っていて、出来上がる途中ですけど、元の様に、公園から見たらもう海は見えないし、そういう状況になっています。

僕はそういう状況を見ていてね。昔テレビの特別番組で、東京の江戸時代の運営の仕方について放送していたんですけど、江戸の町というのは、20年に1回大火災があったらしいです。昔は木造建築ですし、どうしても火災が起こるんです。そうすると、火災が起こる事を前提にして町を作る。だから家そのものにはそんなにお金を掛けない。庶民ですよ。その代わり持って逃げられる物については、それこそ江戸指物とか、色々本当に精緻な家具を作ってですね、良い物を作ったんですけど、家そのものには掛けないと。家は燃えてしまうと。20年に1回。その代わり木場を作ってすぐ家を建てられるようにしたり、要は大火災があるという前提で物を作っているという事ですね。それも一つの考え方じゃないかなと。だから津波が来たからと、本当に防波堤を作るのがよいのかどうか。それを例えば芦屋に住んでいる住民の人に聞いてみますと、中には防潮堤とかいらぬのにねと言う人もいます。景観も悪くなって、普段の生活も全然良くないと言う人もいますよ。防潮堤を作って不動産価値も落ちるんじゃないかという人もいますしね。そういう事は別にして、このコロナの状況についても、今の状況だけを見て、特別な対応をするというのは、それが本当に必要かどうか長い目でよく考えてみる必要もあるんじゃないかと思うんです。だから、今の政府のお金のかけ方を見ても、それこそ何十兆円のお金をかけていますが、本当に必要なのかなという気もします。

<今西議長>

とても大事なご意見をいただいたと思います。

次に、井原委員、レクリエーションスポーツ協会のことを中心にお話してください。

<井原委員>

私たちレクスポは今年度、今月の頭に初めて理事会を開く事が出来ました。加盟していただいているレクリエーションスポーツ団体のうち2団体が解散で脱退という形になりました。数年前から話をしていたのですが、やはり高齢化が着実に進んでいて、そのような団体が維持出来なくなって来ているということが特に顕著に出てきました。多分コロナの影響もあって、活動を取りやめられたという団体も1団体あるという事も伺っています。日本のスポーツ協会を筆頭に県の体協だったりとか、そこと縦の繋がりがあある競技団体は、芦屋市体育協会さんに所属しているのですが、私どもレクリエーションスポーツ協会というのは、そこにはまらない色々なレクリエーションスポーツの団体が集まって、競技をしたりしている団体です。やはり若い世代の団体に入っていたかかないといけないという事で、去年から縄跳びの団体だったり、ラジオ体操の団体だったりなどに、新しく加入をしていただいている所です。とは言ってもスポーツという事で、集まって皆で汗を流しながらというのがベースになってくるので、今コロナ禍の状況になってくると、どういうふうに活動して良いのかという事が、本当に八方塞がりというのが現状です。レクスポの活動においても定例行事が4つ程ありました。目玉のバスツアーも今年は無くなりまして、その中で一つだけウェルネスセミナー、健康スポーツに関係あるような先生をお呼びして、講習会をしようというものだけ一応残そうじゃないかという話になっており、本当に出来るかどうかの最終判断を10月にしようという事で、年間行事はそれ一つだけが残っているという状況です。なかなか糸口が見つけれないのが現状です。

やはり今スポーツでもリモートで、ZOOMでやったりなどがあるんですが、レクスポの利用者の会員は高齢化しているので、なかなかIT関係のような物を使う事が出来ないし、ちょっとどうしたら良いのかなと八方塞がりの状態です。

<今西議長>

大変厳しい状況をお伺いしたと思います。では守上委員どうぞ。

<守上委員>

コミスクです。コミスクは、小学校を使っていない時間帯、放課後とか土日に施設を使わせていただいて、色々な活動をしている団体です。学校を使っている関係で、学校と連動して動きました。2月の末に3月3日から学校が休校になるという事で、生涯学習課から、それと連動してコミスクも自粛するようという連絡が来ました。初めは3月25日までという事でしたけど、それがどんどん延びて、結局5月31日まで学校が休校になりましたので、コミスク活動もずっとそのまま自粛になりました。その間に公共施設が利用できなくなったり、自粛要請があったりして、何も出来ない状態が続きました。学校は6月1日から始まったのですが、コミスクは実際には6月22日から子どもの外での活動はOK、その2週間後に子どもの屋内での活動が、そのまた2週間後が大人の屋外での活動、その2週間後に大人の屋内での活動、という事で最後の屋内での活動再開は8月3日になりました。一番長い所はそこまで自粛という形になったのです。

今は、出来る限り3密を避けるとか、消毒するとか、検温するとかやっています。コ

ミス活動は、クラブ活動と夏祭りだとか、地域に向けての活動があります。クラブ活動の方は、特に子どものクラブはコーチが、初め自粛の間も3密避けるから、何とか活動させてもらえないかと言ってきたり、皆もうやりたいやりたいという感じでした。

今は、野球は、市内大会も始まっています。普段の日は2時間まで、休みの日も3時間までという規制がありますので、その時間内で活動しています。人数の多い所だったら、今までは一つの教室でしていたのを、2～3つの教室に分けてやるとか、時間を6時間取って、低学年は初め3時間、後半は高学年が3時間にするとか、色々工夫をしてなんとかやっています。ただ地域に向けての活動については、夏祭りは無しになりました。夏休みはプール開放もなしです。ラジオ体操は、幾つか実施した所はあります。ラジオ体操は、浜風コミスクで言うと、一日目から地域の方から「密になりすぎているんじゃないか」と実際現場でお叱りをうけましたし、後で学校にもお電話がありましたので、その辺りは改善しました。周りの目を気にしながらですけど、子どもたちの為にも、自分たちの健康の為にもなんとか出来る事はやって行きたいと思っています。

コースだけまだ活動が出来ない状況です。どうしたら出来ますか、と相談受けているんですけど、という様な状態です。

<今西議長>

では、村上委員、PTAとしてご意見をお願いします。

<村上委員>

保護者の代表としての意見というか悩みをお伝えしたいなと思います。幼稚園はそんなに大きなイベントはないと思うのですが、小学校、中学校は修学旅行だったり宿泊学習だったり、毎年子どもたちが楽しみにしている大型のイベントが続々と中止になって、この時代に生まれて、その学年にあたった子たちは、本当に気の毒だなと心を痛めている毎日です。外で出来る運動会や音楽会なども続々と中止になってしまっていて、本当に大事な思い出作りですとか色んな体験をする機会というのが失われてしまっているというのが、すごく辛く思っております。このままワクチンが一般市民に行き渡るまであと何年かかるかわかりませんが、ずっとこのまま中止で良いのだろうか、子どもたちにそんな貴重な体験をさせてあげられずに卒業してしまっていて良いのかというのが、すごく悩みでありまして、完全に中止にしてしまうのではなく、何か代替案として、宿泊が出来ないのであれば日帰りでも何回かに分けて行くとか、小規模に分けて行くとか、何か工夫をして子どもたちに貴重な体験をさせてあげられないかというのが、親としてよく話しております。

それで、これは他の県のことで新聞に載っていたのですが、どこかの旅行会社がバーチャル体験のような形で、修学旅行に行けなかった子どもたちに、修学旅行へ行った体験をモニターで見せたりなど、バーチャルで体験させてあげて、レポートを書いてもらうようにしていますという県があったんですけど、これは子どもたちからしたら、正直蛇の生殺しのような状態じゃないかなと思うんです。これは本当に大人側の満足であって、子どもたちは体で何かを体験したい。そこから学ぶ物は一生の宝になりますので、本当に机の上とか、教室の中ではなくて、本当に外に出て、体で色んな事を体験させてあげられる、経験させて、学習する機会というものを、この大型イベントがなくなった

代わりに考えていってほしいなと思います。

<今西議長>

実体験とバーチャルは違いますので、そういう事も色々あると思います。それでは、学校の事で荒谷委員よろしくお願いします。

<荒谷委員>

最初に教育長が言いましたように5月31日まで学校は臨時休校になりました。今はとにかくその分の学習をどう保障していくかという事を一番に考えております。

それで6月の再開にあたっては、当初は、例えば午前・午後に分けての分散登校であったり、1日おきの分散登校であったりなどを幾つか行いながら、6月の最終週から全員が登校するという事、簡易給食から給食の再開という事で7月20日の通常の終業式からの夏休みスタートはなく、7月いっぱい1学期を行うと、2学期は通常8月31日から、最近では8月27日始業式になっておりますが、今年度は8月17日までが夏休み、18日始業式という事で、子どもたちは夏休みが通常40日間程度あるんですけど、17日間で終わってしまうという事になりました。

水泳に関しても、水の中ではコロナは感染しないというふうにいわれていますが、通常は健康診断をして、安全を確認してから子どもたちをプールに入れるのですが、今年度は健康診断が全く終わっておらず、やっと先週ぐらいからスタートしましたので、全員が出来ていないため、結局プールも泳げずになってしまいました。この暑さですすがに運動場も夏が始まってすぐに熱中症計が振り切っておりますので、運動場で遊ぶ事も出来ずという事で子どもたちは辛い思いを毎日しております。村上委員もおっしゃっていたように、子どもたちにとって充実した活動が出来ないかなというのが一番大きな悩みで、小学校の修学旅行に関しては、延期してでもなんとか出来ないものかなと、宿泊に関してはそれが精一杯かなというふう考えております。

さすがに2ヶ月間勉強が遅れておりましたので、学校によって様々ですが、私が勤務しております精道小学校では、2学期からは当面7時間授業、小学校は通常45分授業なのですが、40分授業にして午前中5時間、昼から3時間という事で授業を行っています。とにかくまた、今第2波とも言われていますけども、第2波、第3波、それからインフルエンザなど様々な要因で休校等が起こっても対応出来るように、出来る時に勉強しておこうという事でやっております。

子どもたちは通常でしたら、色々といわいわい話し合ったり活動したりとか、給食時も班で食べたりとかするのですが、そのような活動は一切なしで、ずっと机を離して、給食も一切おしゃべりなしで、シーンとした中で食べております。ですので、本当に学校生活の普段の楽しさがないんだろうなと。それでも子どもたちは我慢して、今与えられた環境の中で、頑張っていると思います。

授業に関しましては先ほど言いました様に、水泳が出来ませんし、それから例えば音楽のリコーダー、それから調理実習、こういった事が全部未だ出来ない状況で、その辺りをどうして進めていくのかという事を悩んでおります。

今日また後で話に出てくるかもしれませんが、学校の方ではオンライン化という事も当初から考えていたのですが、まずはインターネット環境が整っていない家庭がある程

度ありますので、なかなかその中でスタートさせるのは難しい状況です。それから小学生に関しては、スマホやタブレットをお父さん、お母さんと共用している家庭が沢山ありますので、親がお仕事へ行っている間、昼間にオンラインで授業をやろうと思っても、タブレットがないという家庭もあること、それから中学生や小学校高学年は良いのですが、小学校低学年はさすがに親がいないとタブレットで授業しようと思っても操作出来ない、ということがありましたので、オンラインに関しては、まだスタートすることは厳しいです。ビデオをホームページ等にアップして見てもらう事はしましたけれども、双方向のオンラインはちょっと厳しかったなど。ただ、国が5年計画で進めておりますGIGAスクール構想という、簡単に言いましたら、一人に一台タブレットを配布するという計画をこの一年間で前倒しでやってしまおうという事で、夏休み中の授業時間もかけて、まず学校のLAN環境をさらにグレードアップしまして、12月から1月を目途に、芦屋市はなんとかタブレットを全員に配布するという事でスタートします。一番整っていないのが、いきなり子どもたち全員にタブレットを持たせて、どう授業するのだろうと、教師が一番困るだろうというところです。これが出来ればオンラインの環境も少しずつ整ってくるのかなというような状況です。

<今西議長>

今5名の委員の方々からお話しをいただいたのですが、亀田委員、市民として出ていただいていますので、今のお話についてコメントなどいただけたらと思います。

<亀田委員>

皆さん、色々ご苦労されて大変だと思います。私なりに社会教育を考えますと、学校教育でもなく、家庭教育でもなく、社会教育の在り方の重要性というのは、やっぱりその年齢年代だとかですね、そういった地域を超えた一つ組織の中で、体験的に学習していく重要性があるのではないかと思います。言わばオンラインだとかリモートという物と対極にあってですね、自分で、皆で何かして体験する中で成長して行くというのが社会教育だろうというふうに考えます。ただ、今年の4月から6月にかけての自粛期間を考えると、まだまだ我々も社会自体もコロナへの対応の仕方というものが未熟だった所があるかと思えます。それが段々、科学的にある程度分析が進んできている中で、どうやって社会教育を進めていくかという事になりますと、クラスターを発生させないための手法だとかをそれぞれの団体の責任者の方に教育をして実践させて行くという様な事も大事になってくるし、色んな所に行きますと、体温計などで必ず温度を計ったりする事になるかと思うんですけど、そういった物も装備されている所もあったり、なかったりする所もあるので、市としてもそういうファシリティの面で何か用意して、貸し出だとかそういう事をやりながら活動を助成したりだとか、あるいは今やっておられます企画型イベントへの給付のというのもですね。段々なかなか企画そのものが少なくなっているのではないかと思うのですが、この後期は補助金の申請がなかったというお話ですが、そのような助成金も普段とはちょっと違う形で、例えばコロナ対策をするための費用として団体に給付したり、そういうような助成の在り方みたいなものを検討したりする必要があるのかなと考えます。ただ、色々なご苦労のお話しを聞く中でも、社会教育をそれぞれの年代で経験するという事を退化させてはいけないと思うんです。

このまま行くと段々減少していくような気がしますので、なんとかそこを食い止めて、皆で実体験しながら実感していくという事を検討する必要があるかなというふうに考えました。

<今西議長>

貴重なご意見いただきありがとうございます。私の方からは、大学の現状について説明させていただきます。

大学は3月末からコロナ対策で大慌てになり、いわゆる学校行事に当たるようなもの、入学式とか等々は、ほとんどの大学は中止になっております。前期の授業も基本的には対面式の講義授業は中止になりました。現在私が関係している後期についても、例えば関学大、武庫川女子大、滋賀大等々はそうなのですが、こちらも中止です。

ではどうするのかという事なのですが、オンラインでやるという事です。といってもほとんどがオンデマンドの一方通行で、ネットに情報を上げたものを学生が学んで、学んだ成果をネットで提出する、それに対して評価をするという、そういう形を取っています。ただし実習を必要とするような一部の科目、語学、体育や学校教育だと家庭科とか理科とかの科目と、ゼミなどの特定の少人数集団の学習については、対面でやっています。それも距離開けて、ソーシャルディスタンスでやっていくという形を大学ではとっています。

大体そういう形でやっているのですが、私の場合で言いますと、この前期で600人の学生を対象にしたのですが、大学というのは、前期だけで15回授業があります。15回の授業の情報、学習内容をネットで送る。これは大した事ではないのですが、問題は学生たちがそれを読んで勉強して、成果をレポートで出して来る。このレポート内容の評価ですね。点数評価もさることながら、学生に送り返す注意とか、こういう所変えた方が良くないとか、そんな事を書くことがあって、正直に言いますと一日約10時間はコンピューターとにらめっこしています。ですから全国の大学の先生方は、今はもうフラフラになっているのが現状です。学生の方も、そんな状態ですので大変だと思います。学生もフラフラだと聞いております。教師も学生も疲労困ぱいというのが、全大学の状況だという事は、調査をしたのですが、東京の方もそうですし、皆そういう事です。ただ1点救われる事は、学生がよく勉強したということです。ちょっと授業聞きに行こうかという感じの事は無理です。必ず課題がありますから、きちんと読んで、答えなければならぬ。文章も書かなければならぬ。学生にとっては、物凄い負担であると同時に成長もしたと思います。随分とそういった事で、大学の在り方が大きく変わったかなという感じがあります。

そんな事もあって、どの業界もどの領域も今本当に大変な事になっておりますが、今私も含めて委員のメンバーが、亀田委員以外の方は、ご報告されました。また亀田委員からも貴重なご意見をいただきました。それについてディスカッションしていきたいので、質問とかご意見あれば頂戴したいと思います。

<井原委員>

さっき亀田委員が、社会教育はZOOMなどと対極にあるというふうな事を仰っていましたが、私もそう思います。スポーツの場合においてもそうなのですが、そういう所を融

合したような何かしらがないんでしょうか。方法、新たなコミュニケーションの方法だとか、そういうのがニーズとしてあったら、もちろん色んな事を学ばないといけないと思います。

<今西議長>

亀田委員は、オンラインとかりモートの対極に社会教育があるのではないかと仰いましたね。そう言った事も踏まえて、そこを乗り越えて行くものが何か出来ないかという事ですね。

<村上委員>

オンラインはオンラインですごく利便性が高いという長所もあります。そういった今の時代に合った物を取り入れながら、従来からあった物も融合させながら活かしていくというのは、すごく良い事だと思います。要は、3密を、コロナの感染を防ぐという事がまずは大事なので、それをしつつ「ニューノーマル」、「新しい日常」を恒久的に良い所を上手く色んな分野が試行錯誤して、新しいアイデアを必要に迫られて生み出せるチャンスでもあるので、そういった何かがあればすごく画期的だと思います。じゃあ具体的に何かというと、やはり専門家の知識とかが必要になってくると思うのですが、是非そういった新しいITの分野で活用して、教育現場なり社会教育現場なりでも活用していただきたいとは思っています。

<今西議長>

3密を防ぐという大きな命題がある一方で、もう一方では「ニューノーマル」と出て来た所で、良い所もある訳です。それを伸ばして、次の社会に繋げていけたら良いなというご意見を承りました。

<亀田委員>

個人的な趣味の話にはなるのですが、音楽をやっているんです。グループで集まって音楽をしているのですが、やっぱりずっと集まる期間がなく、個人でやってもまったくつまらない訳ですよ。それで8月に入って初めて、グループのメンバーで集まって合わせるという事をしたのですが、やっぱり皆口々に、会ってやらないと駄目だよねと言う話になったんです。ただ集まる場所についても、今定員の半分以下でないと駄目だとか言う事だし、その歌だとか合唱だとか吹奏楽系というのは、今でも飛沫の関係で、活動できるような場所がなかなかないという様な状況です。やっぱり集まる場所をどう確保するかだとか、飛沫をどう、科学的にさっき2mだったら飛ばないとかですね、色んな実証データがある訳なんで、そういった物をどう皆さんに教育して、運営していけば良いかという事を教えていただければ、もっと集まる機会、会議室も今まで定員を制限していたのをもっと大きくしてもっと大人数で集まれるように会議室に変更するだとか、やり方を考える中で、集まって実体験で、皆でコミュニケーションを取るという事を模索していく必要があるのではないかなという気がしております。

<今西議長>

社会教育というのは基本的には、集合学習と個人学習があるのですが、集合学習がとて大きなウェイトを占めているんですね。集まって何かを学ぶということです。ですからその意味で、亀田委員は音楽を例に挙げられた訳ですが、集まる事が出来る事が大事です。会ってやらないと駄目だよねという気持ちを皆さん持たれた訳ですから、そういう意味ではすごく大事だと思います。

ここで、私が昨日か一昨日かにテレビで観た事をご紹介します。高校の事なのですが、私は合唱を50年以上やっているので興味があって観ていたら、全国的に合唱コンクールの上位トップクラスの県なのですが、そこで最近、大会というか、何人かが集まって合唱をしたところ、途端にコロナが発生して、大変な状況になってしまったという事なのです。最近やった大会ですから、主催者も参加者も皆、きちんと3密対策をやっているのです。きちんと離れてなされています。ですので、その点について、練習とか発表で感染したとは思われぬ。ではなぜ、という話なのですが、これは想像ですが、恐らく終わってから車に乗る時の会話とか食事とかそういう時になったのではないかと推察されるとテレビはまとめていました。私も多分そうだと思います。だから集まっては駄目、ではなくて、集まってやるのは良いと、ただ、その時だけではなくすべての時間において注意しないとイケないという事なのかな、と私は読み取ったのですが、いかがでしょうか。

<野村委員>

時々総合公園をウォーキングするのですが、そこで日曜日だと、子どもがサッカーやったり、中高生がラグビーやったりしているのですが、見ていると、プレーしている時はみんな離れているんです。しかし、今だったら炎天下なので小さいテント張っているんです。その中に入っている時はそれこそ密になっていますね、競技をやっていない時に。誰かが注意したら良いのでしょうか、そういう時にコロナに罹る可能性はありますよね。ですから、お芝居とかもそうですが、きちっと客席は分けているのだけど、そこへ行くまでの間や並ぶ間とか、その前の段階で密になる可能性はありますよね。

ちょっと別の話なのですが、図書館を時々利用するんですけど、コロナの間はネットで読みたい本を注文しておいて、図書館の方で準備していただいたものを窓口に取りに行くという事をずっとやっていました。今はもちろん中に入って借りられるのですが、中は密にならないように椅子を全部取っ払ってしまってガランとしています。何かこういう状況になって、今西先生がさっき仰った社会教育の集合ではなく、個の対応ですよ、図書館なんかは。もう少し何か色んな対応が出来ないかなと思って見ていたのですが、例えば図書館で本を借りて読もうとした時に、前に誰が借りたのか分からないですから、消毒したいですよ。それが寄贈された消毒器が一つあるだけですけれどね。こういう状況で皆家に籠っている訳ですから、図書館に来てもらって、本をどんどん利用してくださいと、このようになっていきますよと、もう一つ突っ込んだ積極的な対応があってもいいんじゃないかという気はします。なんかで借りに行った時は、消毒器が使えない事がありました。どうしてそんな事やっているのかなと思ったのですが。

<村上委員>

返却された本は一冊一冊もちろん消毒しますし、閲覧した本も元の棚に戻すのではなく受付に戻す、というルールを図書館で作られているみたいです。

<野村委員>

受付に戻しますよね。借りますよね。借りたら消毒する機械があるんですよ。

<村上委員>

いつからかわからないですけど、寄贈されたものがありますよね。あれが使えなくなっているという事ですね。

<野村委員>

もう少しそういう機能を充実して、もっと積極的に図書館来てくださいと呼びかけたらいいと思います。籠っている人がいっぱいいる訳ですから。ですから、本でも読んで、積極的に学びましょう、と。

<村上委員>

手作業で一冊一冊消毒されているらしいんですけどね。それをアピールしてないですよ。

<野村委員>

むしろ積極的な活動じゃないですか。皆閉じこもっているんですよ。図書館に来て皆で学びましょうよと。それについては、こういう事を普段にない事をきちんとやりますよと。体制も充実していますというふうな事があればね、なにか一つの売りとか、こういう所もあるんだなど。

<村上委員>

アピールが少し足りないと思いますね。ちゃんと管理はされていると思うんですけど。アピールが足りなくて、たぶん市民の間で図書館は、コロナ禍ではちょっと不安だよ、誰が触った本かわからないしというように思われている方が多いのだと思います。

<野村委員>

その辺もしっかりとPRして、もっと積極的な対応をしたら良いのではないかと思います。

<村上委員>

子どもたちにも図書館は使ってほしい場所なのですが、確かに最近は利用が少ないですね。

<今西議長>

先ほど私が申し上げた集合学習が色々な意味で困っている。だけど、一方では個人学習があって、上手くやればそれ程問題ではないんじゃないかと、一時、図書館やネット図書があげられたようで、図書の消毒が簡単に出来る機械がたくさんあれば、図書館の方の苦勞があまりないように出来たら良いですね。

<野村委員>

図書館というものを積極的に打ち出して活動すればどうかなと。

実は、これもNHKの特番で観たのですが、健康で長生きしている人の行動とか言葉を全部AIに分析させて、言葉を集約させていった中で、一番の共通項は図書館に行ったという点でした。図書館に行くという事と健康で長生きであることは、そんなに簡単に結びつかないですが、AIに分析させたら、間違いなく図書館に行く人が一番健康で長生きしていると出るので。何故かという、そこで知識を得ている事と、次に行動するための知識を得ているという事を行動しているとその時分析していましたけど。図書館はただ単に本読んで勉強するためだけでなく、より大きな意味を持っているのだなど、図書館の多い町ほど、長生きの人が多いらしいと分析していました。図書館の数と長生き度という、図書館って結構色々な意味持っているのだなど。

<今西議長>

私は、大学で図書館についても教えているのですが、今の話は初めて聞きました。この件について、行政の方にちょっと聞こうかなと思います。

<事務局：長岡>

実際に設置されているのは、確か一台だったと思います。

<野村委員>

上手くいっていることは、いっていると思います。僕が行った時は、3、4人並んでいる時もありました。普段はそんな事なかったですけど、やっぱりコロナの間は、皆さん熱心にされていますよ。一台だから不満かどうかちょっと分からないですからね。しかし、返却された本を図書館内で消毒されているのは、僕も知りませんでした。それはPRした方が良いですよ。だいたい本って汚いし、汚いなと思いながら、借りるのですが。消毒してあるだけでも違いますよね。

<今西議長>

図書館は消毒して安全だからという事について広報をよろしくお願いします。

ちなみにこれは、東京の方の大和市ですが、お母さんのためのオンライン座談会なんて事を行っている所もあります。オンラインの座談会です。オンラインと社会教育とはある意味で対極的だというご意見があって、それはその通りだと思うのですが、オンラインを活用した場合こういった事が出来るなあとという事です。資料4の所の新型コロナ禍の生涯学習、社会教育事業、オンライン型、オフライン型の試みと書いていますね。ちょっとこれなんかも参考にさせていただいて。音楽の事は先ほど出てきた音楽ですかね。8とか9辺りに若干出ていますね。8、9、10、ミュージカルもそうですね。こ

ういった事が全国的には、行われている事を委員の皆様にお知らせしようと思って、学会からいただいた物を提供させていただきました。こういった事も含めてご意見をいただければと思います。

< 守上委員 >

私は子ども会もやっているのですが、子ども会でオセロ大会をしようと思っております。テレビで放送していたのだと、仕切りを作っていました。今までよりは密を避けて、参加者も少なくして、親も入ってはいけないという様な形でやろうと思っています。私の考えとしては、例えば、300人規模の夏祭りは出来ないけど、それを地域ごとに小さく分けて、例えば50人ずつの夏祭りだったら出来るんじゃないかなど。全部やめるのではなくて、子どもたちには、何かやってあげたいと思うのです。ただ何かすれば、この間のラジオ体操でもそうですが、怒られるという事もあります。ですけど、もしかしてそこでコロナの感染者が出たら、私は叩かれると思いつつもやりたいと思うのです。皆さんはどう思われますか。

< 今西議長 >

小さく分けて、分散的にやっていくという事ですね。先ほど校長先生も分散登校の事出しておられましたけど、そうやって細かく小集団化していけば、そしてそこでの安全を担保すれば、結構やれるのではないかという感じはしますね。

< 井原委員 >

それしかやりようがないような気がしますね。でもそれが小集団化する事によって、盛り上がりだとか、そういった部分が、どうしても昔を基準にしてしまうので、確保出来なかったりとか、本当にそれをする事に意義があるのだろうかという所まで考えてしまったりしてしまいますよね。

< 守上委員 >

小集団にしても、危険かもしれないのにやるのかと言われてたりもするんです。

< 井原委員 >

たぶん、今例えばコロナ自身がどんなものかと分かってない中で、一方では普通の風邪ぐらいに思っていたら良いのだという意見もある中で、インフルエンザの方がすごく致死率高いし、という事からすると、そんなに大した事ないよという意見もあるし、今は分からない、得体が知れないという所が問題で、たぶんそういう状況下にある中で、やっぱり何やっても駄目なのかなという気がしますね。

< 亀田委員 >

さっきそういった団体の責任者だとかに対する教育という話もしたんですけども、例えば、炎天下で野球大会をやるなどという中で、それで熱中症の方が出たら、その主催者がどれだけ責任を取られるかという事もある訳ですよ。まあそれは、責任の在り方が考えられる訳なんですけど。それと同じで、小集団の中で色々コロナ対策を取りなが

ら活動をするという事に対して、法的な責任もあれば、色々な世間的な責任もあるかもしれませんが、最終的には、法的な責任の在り方がどういう物なのかという事をきちんと整理して教育していけば、小集団でどういう対策を取って活動すれば良いんだとあったと思うんですよね。そういう物を整理して、教育していけば、私は良いのではないかと思います。だから、小集団の中で、きちんとした今行政が言っている対応をきちんと集団として取って、それを参加者に徹底して、こうやって行けば、それなりのそのの少なくとも後ろ指指されるというか、そういう事はないと思うんですけど。

<野村委員>

ちょっと違う話かもしれませんが、私も芦屋川カレッジ同好会の中の美術館鑑賞同好会のリーダーやっていますのですが、先月はあべのハルカス美術館に行って、ホテルで食事をしました。12名ぐらいが参加しました。高齢者ばかりですし、私も行こうかどうか迷いました。10年間ぐらいやっていますから、ただ皆見知っているんですよね。その人がだいたい普段どういう行動しているか、出歩いているかどうかだと出かけてないし、たぶん他人と接触してないという事は、ほとんど個人のプロフィール分かっている訳ですから。それが一番の頼りですからね。ですから他と接触せずに、そのグループがグループで、高齢者ですけども、移動したり、食事したりするのは、問題ないのではないかという事で、なんでもそうですけど、参加する人のプロフィールがわかっていたら、一番安全なんですよ。マスクもいらないかもしれない。皆分かっているけどただ不安があるから皆こうして、一応ルールとしてあるのですのでしていますけど、どこが一番ポイントは参加している人が雇っているかどうかですよ。分れば一番良いですけど。

<守上委員>

雇ってなかったら、マスクはいらないですよ。

<野村委員>

いないんですよ。たぶん実際はほとんどそうなんですけどね。ただ0.01%でも雇っている可能性があれば、皆マスクをしますけども、参加される方のもう少し詳細がわかっているなら、そういう人を集めてやるとか、個々のプロフィールが参加する人が安心して出来るようであれば、皆参加してくれると思うんですけど、全然知らない人が入って来るようなものは、難しいかもしれないですね。

<今西議長>

まあ社会教育は知らない人と知り合う場でもありますので。難しい面があります。

<野村委員>

そこまでは難しいですね。今の時期は。

<村上委員>

個人情報の問題もありますしね。ちゃんとした指針、ガイドラインの方が、やっぱり行政からはっきりと市民に提示したものがあれば、この小規模集団であれば、具体的に

何名以上の会食はOK,何名以上のカラオケはOKとか、何名以上の学習会はOKとか、そういったはっきりとしたガイドラインというのを今後市民がそれを表にして持ち歩いても良いぐらい、自分が行動する時に、主催者が何かを企画する時にでも、それを見ながら、ここでちゃんとお墨付きのガイドラインがあるから、私はこれで堂々と出来るという事を市民がそれを周知すれば、その変な風評というか、風評被害とかは無くなっていくのかなと思いますね。

やっぱりどこかで集まっている集団を見て、よく集まれると言われるのが怖くて、皆が避けてしまったりして、もう経済が動かなくなってしまうという悪循環になっているのかなと思うので、本当にWithコロナで、この先あと2、3年と言われていいますから、やっぱりガイドラインの様な物、皆がお墨付きの太鼓判があれば、堂々と行動出来るじゃないかと思います。そういったのを広報とかで、バーンと挙げてもらって、市民が気持ちよく行動出来るような社会になればなと思うんですけど。

<今西議長>

一定の安心感が得られるようなガイドラインあればという事ですね。

<村上委員>

やっぱり皆、批判を受けるというのが怖いと思うので。それでどうしても籠ってしまうという。以前の様には行動出来ないですけども、制限のある中でも動いていた方が良いのかなとは思いますが。

<今西議長>

ちょっと少し校長先生の立場から離れて、一社会教育委員として、荒谷委員よりもし良かったら、少人数の活動についてご助言いただければと思います。

<荒谷委員>

学校の以外に、子どもたちに縄跳びを教えています。いつから出来るかなという事で、6月に体育館・青少年センターが開いた時、コミスクが活動を再開して良いよという時から、再開しました。子どもたちの事ですし、縄跳びは割とばらけてするので、学校の体育でも、この時期は暑いのですが、割とやっている事があります。出来るかなと思って、やっぱり徹底的に、コロナ対策をやる時は温度計って、体育館に色々なテープでラインを作って、席を離して、椅子を並べて座らせて、待っている間マスク付けるようにしています。人数はたくさん来て、子どもたちは体動かす場があまりないので、すごく楽しくやっていますし、やって良かったなという反面、先ほどから出ています様に、これでもしここでクラスターが発生したらどうなるんだろうという思いも持ちながらずっとやっています。

自分が校長として修学旅行へどうして行こうという時、もし向こうでコロナに罹ったらどうするのですかと説明会で質問された時のために、今Q&Aを作っています。その責任をどう取ってくれるのかという話を保護者から言われるだろうなど。それは自分がやっている縄跳びのクラブでも同じだろうなと思いながら、そういうのはほんと、怖いなあと、責任取れと言われてもとれないですよ。正直。その辺は本当社会教育、学校教

育どちらでも同じだと。でも皆さんは、そこは心配されますのでね。悩む所です。

<村上委員>

責任の追及をするのではなくて、心配なら参加しなかったら良いだけの話なんですけどね、本当は。そこを理解出来ない保護者の方もたくさんいらっしゃるの、心苦しいかなと思いますね。立場的に。

<今西議長>

なかなか参加をやめてくださいと言にくいと思います、学校は。大変難しい問題がありますから。

結構皆さん方から凄いなと思うご意見出てきていると思っっているのですが、一つの結論としては、少人数に絞り込んで、安全な距離を保って活動する事でしょうね。それしかない様な気がします。それと共に私もちょっと申し上げたのですが、ある時間だけではなくて、すべての時間において配慮と工夫がいるという事でしょうね。でないと、少し気を許した時に、罹ってしまうという事に成りかねないかなと思うのです。いずれにしても委員の皆様からご意見をいただいて、提言出来るような事は出来たのではないかと思います。それから野村委員が仰った事ですが、個人学習はこの際裏返して、むしろ伸びるのではないかと思います。それについてももうちょっと追求してみる必要がある。でないと皆気持ちが鬱屈としていますよね。気持ちが入りませんものね。そう言った事もちょっと考えていく事が社会教育の場では出来るなというふうに思いますね。

<事務局：中畷>

先ほど図書館の話の話を聞きましたが、私の知り合いの話だと、コロナは何時間経てば大丈夫だとか、その間は他に触らせないようにして、それからまた貸出しとかをすると、私の知り合いで、図書館で働いていたりする人からを聞きましたので。

<今西議長>

時間をおいたらコロナウイルスが消えていたという事ですね。それも一つの方策ですね。知恵を出し合わないといけないという事です。お互い出し合ひましょう。

<守上委員>

先ほど荒谷委員が仰ったんですけど、縄跳びをする前に床にテープを貼って、椅子も離してという事で、色々先に対策をされたじゃないですか。この間コミスクでラジオ体操した時に、名簿に名前を書いてもらわないといけないから、口頭で、こことここに離れて名簿書いてねと言っても、子どもって一斉に集まって来るのです。まず最初に危機管理としてどういう事が起こるかという事を考えておかないといけないなとすごく反省しました。コーンを立てて、線引くぐらいの事をしないと行けなかったのを、なんとなくいつもの感覚でやってしまった。このコロナの時には、何かするには、前もって起こりうる事を考えておかないといけない、今までよりももっともって考えないといけないなと思いました。

<今西議長>

新しい時代だという事なのでしょう。それなりの対応がいるという事なのでしょうね。とても貴重なご意見ありがとうございます。今日は私も研究者ですので、いっぱい色々な事教えていただいて、ありがたいと思っております。結論がなくて、ないというか、最初から私は結論出す気で臨んでいませんので、今日皆様方から頂いたご意見、皆様方も受け止めていらっしゃると思いますので、それを元にではどうするかという事を考えていていただいて、芦屋市の社会教育あるいは学校教育も上手くいくように、結果良しという事になる様に、頑張っていかなければならないという事で、この会を終えたいと思います。

それでは、次に議題(5)について、事務局よりお願いします。

<事務局：中畠>

【事務局より説明】

<今西議長>

今の事務局からの説明について、何かご質問等ございますか。よろしいですか。なければ、本日の会議は終了といたします。長時間お忙しい中ありがとうございました。

<閉会>